

# 私立学校特別研修会 外国語（英語）教育改革特別部会 〔東日本エリア〕 実施報告

主催 一般財団法人私学研修福祉会 協力 一般財団法人日本私学教育研究所  
日本私立中学高等学校連合会 後援

小学校・中学校・高等学校等を通じた英語教育改革を進める文部科学省では、平成26年度より英語教員の英語力・指導力強化を図る観点から、英語指導力向上事業「英語教育推進リーダー中央研修」を外部専門機関に委託し実施しています。

同研修は、全国の国・公・私立学校の英語教員を対象にしているものの、公立学校を中心とした研修の仕組みになっていることから、私学関係者の要望に応じて、文部科学省は平成27年度より私立学校教員が参加しやすいよう受入体制を整備し、私立学校教員も参加できるようになりました。

しかし同時に、次期学習指導要領や大学入学者選抜改革を含めて国が進める英語教育改革に係る最新の情報が、私立学校には十分に伝わっていない実情もあり、私立学校教員は公立学校教員に比べ情報量が少ない故に埒外に置かれた感は否めません。

については、私立学校においても、外国語(英語)教員の外国語(英語)力・指導力強化を図るためには、教員が21世紀型教育に相応しい最新の教授法と情報を早急に取り入れる必要があることから、平成27年度より専門家の指導による特別研修会「外国語(英語)教育改革特別部会」を、全国5つのエリアで実施しています。

当部会【東日本エリア】では、初日は市内の会場において、文部科学省の委託を受け、「英語教育推進リーダー中央研修」を企画、運営しているブリティッシュ・カウンシルのトレーナーを講師に迎え、今年度中央研修に参加した私学教員が、最も参考になった内容を取り上げてワークショップを行い、新たな外国語(英語)指導法を体験しました。翌日は教育課程特例の研究開発学校として4・3・2制で発達段階に応じた外国語(英語)教育等を先進的に実践する「聖ウルスラ学院英智」を会場に、小・中学校、高等学校の英語の授業(小・中学校は「公開研究会」授業)視察、文部科学省の講演等(公開研究会)、参加者らによる意見交換会でネットワークづくりを進める等多様なプログラムを用意しました。

- ◆ 会 期 ◆ 平成27年12月4日（金）～5日（土）
- ◆ 会 場 ◆ [仙台ガーデンパレス](#)（4日） 仙台市宮城野区榴岡4-1-5（JR仙台駅東口より徒歩3分）  
[聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校](#)（5日） 仙台市若林区一本杉町1-2  
（仙台駅西口バスプール市営バス6番のりば「若林区役所前」下車すぐ）

- ◆ 参加人員 ◆ 27名
- ◆ 参加対象 ◆ 私立中学校・高等学校・中等教育学校の英語科教諭（ワークショップは英語で行われます）
- ◆ プログラム ◆

### ①ワークショップ

文部科学省の委託を受け、「英語教育推進リーダー中央研修」を企画、運営しているブリティッシュ・カウンシルのトレーナーを講師に迎え、平成27年度中央研修を受講した私学教員が、最も関心を持ち、有益と感じた2つのトピックについて学びます。

- テーマ ● 実際のコミュニケーション場面で活用できる文法の指導法  
● 発音を重視したリスニング向上のための指導法

講 師 トム・レドブリー ブリティッシュ・カウンシル トレーナー(教員研修)

### ③オープニングセレモニー〈公開研究会〉 ④研究授業（高等学校）（小・中学校〈公開研究会〉）視察

⑥講演〈公開研究会〉「研究主題：課題解決に向けて主体的・協働的に学ぶ力の育成 一言語活動の充実を図る」  
聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校における英語の研究授業を視察し、文部科学省初等中等教育局視学官による講演で最新の情報を知り、先進校の取組みを体験します。

演 題 「学習指導要領改訂の方向性 ―アクティブ・ラーニングと授業改善―」

講 師 田村 学 文部科学省初等中等教育局視学官

### ②情報交換会 ⑤分科会(高校授業実践者との意見交換会) 情報・意見交換を通して課題を探求し、交流を図ります。

### ◆ 日程概要 ◆

時刻	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17
	00		15 30	30	00 20 30 45 50 10			50		00 10 20 00
12月4日(金) 仙台 ガーデンパレス					受付	開 会 式	①ワークショップ			②情報 交換会
12月5日(土) 聖ウルスラ学院 英智小・中学校、 高等学校	特別 部会	1号館 (高等学校)			④研究授業(高等学校) 【5F 221・222/111教室】 (1) (2)・(3)		昼食 【5F】	⑤分科会 (高校授業実践者との 意見交換会) 【5F】		閉 会 式
	3号館 (小・中 学校)	受付 【1Fエント ランスホール】	③オープニング セレモニー 【3号館講堂】 〈公開研究会〉		④研究授業(小・中学校) 【各教室】〈公開研究会〉 授業1 授業2		〈公開研究会〉		⑥講演 【3号館講堂】 〈公開研究会〉	

<英智公開研究会プログラム>について … 当部会参加者は、午前は「オープニングセレモニー」に出席後、「小・中学校の研究授業」(英語：F4,S7-Bgrade)を視察できます。午後は講演を聴講します。〈公開研究会〉には一般の方や学生らが参加します。

### ◆ 学校紹介 ◆

聖ウルスラ学院英智高等学校は、世界最初の女子教育修道会、聖ウルスラ修道会が設立した学校で、「キリスト教的人間観に基づく人格の形成」を教育目的に、「力がつく元気な学校」を目指しています。現在仙台市若林区の木ノ下キャンパスに幼稚園、同一本杉キャンパスに9年制の小・中学校と併設型の高等学校があります。小・中学校は文部科学省の教育課程特例校制度における研究開発学校として独自の教育課程（4・3・2制）を実施しており、文部科学省より「言語技術」研究開発学校（2007～2009）、またユネスコスクールに指定されている小・中一貫校です。高等学校は普通科3コースがあり、一人一人がそれぞれのコース特徴を生かしながら、「志」を持ち、積極的に社会に関わりながら自分の可能性を發揮すべく活動しております。2005年より校名に「英智」を加え、男女共学となった現在の高等学校の生徒数は、男子200名、女子615名（+留学2名）の計815名です。

平成26年度よりウルスラ独自のSGH構想を立ち上げ、「環太平洋地域におけるリーダー的な役割を担う人材の育成」を目指し、新規の海外プログラムも立ち上げながら今後教育課程との連動のもと、更なる飛躍を目指します。

◆ 講師・発表者・指導員（順不同） ◆

トム・レドブリー ブリティッシュ・カウンスルトレーナー（教員研修）  
中 川 武 夫 一般財団法人日本私学教育研究所所長

◆ 特別委員・指導員（順不同） ◆

後 藤 健 一 聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校主幹教諭  
金 丸 紋 子 カリタス女子中学校・高等学校教諭  
田 中 歩 工学院大学附属中学校・高等学校教諭  
船 橋 巖 上智福岡中学校・高等学校教頭  
川 本 芳 久 一般財団法人日本私学教育研究所事務局長代行  
山 崎 吉 朗 一般財団法人日本私学教育研究所主任研究員

◆ 日 程 表 ◆

12月4日(金)

[会場 仙台ガーデンパレス4階 羽衣]

12:00	
12:30	受付
12:45	◇ 開会式 <span style="float:right">[4階 羽衣]</span> 司会 川本芳久 (一財)日本私学教育研究所 事務局長代行
12:50	1. 開式 2. 開会挨拶 (一財)日本私学教育研究所 所長 中川 武夫 3. 視察校代表挨拶 聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校 校長 伊藤 宣子 4. 研究授業等説明 聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校 主幹教諭 後藤 健一
16:00	◇ ワークショップ *ワークショップは英語で行われます。 <span style="float:right">[4階 羽衣]</span> 司会 田中 歩 外国語(英語)教育改革特別委員 文部科学省の委託を受け、「英語教育推進リーダー中央研修」を企画、運営しているブリティッシュ・カウンシルのトレーナーを講師に迎え、平成27年度中央研修を受講した私学教員が、最も関心を持ち、有益と感じた2つのトピックについて学びます。 テーマ ● 実際のコミュニケーション場面で活用できる文法の指導法 ● 発音を重視したリスニング向上のための指導法 講 師 トム・レドブリー ブリティッシュ・カウンシル トレーナー(教員研修)
17:00	◇ 情報交換会 <span style="float:right">[4階 羽衣]</span> 司会 山崎吉朗 (一財)日本私学教育研究所 主任研究員 ファシリテーター 後藤健一、金丸紋子、田中 歩、船橋 巖 外国語(英語)教育改革特別委員 外国語(英語)教育改革への取り組み・実践等について情報・意見を共有し課題を探求します。ネットワークづくりに。

12月5日(土)

[会場 聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校]

08:00							
09:00	受付 [3号館【小・中学校】1階 エントランスホール]						
10:15	◇ オープニングセレモニー <公開研究会> <span style="float:right">[3号館【小・中学校】3階講堂]</span> 1. 和太鼓クラブ 2. 雀踊り 3. 校長挨拶 聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校 校長 伊藤 宣子 4. 児童・生徒によるポスターセッション・プレゼンテーション						
10:30	◇ 研究授業						
11:20	<table border="1" style="width:100%"> <tr> <td style="width:50%"> <b>【高等学校】 [1号館]</b>                      1時間目(10:30~11:20)                      (1) コミュニケーション英語Ⅰ [5階 221・222教室]                      「グループワークを通じたエッセイライティング」                      特別志学コース Type1 1年2組 授業者 鈴木 淳 教諭                 </td> <td style="width:50%"> <b>【小・中学校】 &lt;公開研究会&gt; [3号館]</b>                      1時間目(10:30~11:20)                      「授業1」 [2階4年A組教室]                      英語:F4年(小4)                      授業者 菅野 智子 教諭                 </td> </tr> <tr> <td>                     2時間目(11:30~12:20)                      (2) コミュニケーション英語Ⅰ [5階 221・222教室]                      「発信力を高める異文化理解」                      特別志学コース Type2 1年1組 授業者 高野 翔太 教諭                 </td> <td>                     2時間目(11:30~12:20)                      「授業2」 [3階7年B組教室]                      英語:S7年(中1) B-grade                      授業者 小関 晴彦 教諭                 </td> </tr> <tr> <td>                     (3) コミュニケーション英語Ⅱ [5階 111教室]                      「ICT使用の学びとその可能性～生徒の学びのモチベーション向上のために～」                      尚志コース 2年3組 授業者 石井 桃子 教諭                 </td> <td></td> </tr> </table>	<b>【高等学校】 [1号館]</b> 1時間目(10:30~11:20) (1) コミュニケーション英語Ⅰ [5階 221・222教室] 「グループワークを通じたエッセイライティング」 特別志学コース Type1 1年2組 授業者 鈴木 淳 教諭	<b>【小・中学校】 &lt;公開研究会&gt; [3号館]</b> 1時間目(10:30~11:20) 「授業1」 [2階4年A組教室] 英語:F4年(小4) 授業者 菅野 智子 教諭	2時間目(11:30~12:20) (2) コミュニケーション英語Ⅰ [5階 221・222教室] 「発信力を高める異文化理解」 特別志学コース Type2 1年1組 授業者 高野 翔太 教諭	2時間目(11:30~12:20) 「授業2」 [3階7年B組教室] 英語:S7年(中1) B-grade 授業者 小関 晴彦 教諭	(3) コミュニケーション英語Ⅱ [5階 111教室] 「ICT使用の学びとその可能性～生徒の学びのモチベーション向上のために～」 尚志コース 2年3組 授業者 石井 桃子 教諭	
<b>【高等学校】 [1号館]</b> 1時間目(10:30~11:20) (1) コミュニケーション英語Ⅰ [5階 221・222教室] 「グループワークを通じたエッセイライティング」 特別志学コース Type1 1年2組 授業者 鈴木 淳 教諭	<b>【小・中学校】 &lt;公開研究会&gt; [3号館]</b> 1時間目(10:30~11:20) 「授業1」 [2階4年A組教室] 英語:F4年(小4) 授業者 菅野 智子 教諭						
2時間目(11:30~12:20) (2) コミュニケーション英語Ⅰ [5階 221・222教室] 「発信力を高める異文化理解」 特別志学コース Type2 1年1組 授業者 高野 翔太 教諭	2時間目(11:30~12:20) 「授業2」 [3階7年B組教室] 英語:S7年(中1) B-grade 授業者 小関 晴彦 教諭						
(3) コミュニケーション英語Ⅱ [5階 111教室] 「ICT使用の学びとその可能性～生徒の学びのモチベーション向上のために～」 尚志コース 2年3組 授業者 石井 桃子 教諭							
12:20	◇ 昼食 [1号館【高等学校】5階 121・112教室]						
13:00	◇ 分科会 (高等学校授業者との質疑・意見交換 質疑応答 [1号館【高等学校】5階 221・222教室] 意見交換 [1号館【高等学校】5階 112、121、122、131教室] 司会 船橋 巖 外国語(英語)教育改革特別委員 研究授業を受けての質疑応答の後、グループに分かれて意見交換を行います。 ファシリテーター 金丸紋子、田中 歩、船橋 巖 外国語(英語)教育改革特別委員、山崎 吉朗 主任研究員 指導助言 聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校 主幹教諭 後藤健一、高等学校授業者・英語科教諭						
13:10	13:10-13:40 質疑応答(研究授業等) 13:40-14:40 意見交換(分科会)						
14:40	◇ 講演 <公開研究会> <span style="float:right">[3号館【小・中学校】3階講堂]</span> 演 題 「学習指導要領改訂の方向性ーアクティブ・ラーニングと授業改善ー」 講 師 文部科学省初等中等教育局視学官 田村 学						
16:10	◇ 閉会式 <span style="float:right">[1号館【高等学校】1階 アンジェラホール]</span> 司会 川本芳久 事務局長代行						
16:20	1. 開式 2. 総括 (一財)日本私学教育研究所 主任研究員 山崎 吉朗 3. 閉式						
	解 散						

## 私立学校特別研修会外国語（英語）教育改革特別部会【東日本エリア】

平成 27 年度の新規・重要事業の一つとして新たに設置された外国語(英語)教育改革特別部会(以下、「特別部会」)は、国が進める英語教育改革、大学入試制度改革の動きに対応していくため、英語教員の英語(外国語)力・指導力の強化、及び 21 世紀型の英語教育にふさわしい最新の教授法を積極的に取り入れることを目的とした、専門家の指導による実践的な教授法に係る研修会である。また、文部科学省による「英語教育推進リーダー中央研修」の研修実習の受け皿としての役割を併せ持つ。

本年度は全国 5 つのエリアで開催する。会期は 2 日を基本とし、英語教育において先進的な取り組みを行う学校の英語授業視察並びに専門家による講演・ワークショップ等を研修会の柱として実施する。

本研修会は、12 月 4 日～5 日に仙台ガーデンパレス、聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校において募集人数 40 名に対して、参加者 27 名で開催した。初日は仙台ガーデンパレスで開会式、ワークショップ、情報交換会を行った。二日目は、聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校で英智公開研究会との同時開催で行い、研究授業視察、分科会（質疑応答・意見交換）、講演を行った。

### 《開会式》

開会式では、中川武夫・当研究所所長(蒲田女子高等学校顧問)の開会挨拶に続いて、梶田叡一・聖ウルスラ学院理事長、伊藤宣子・同校校長から挨拶を頂いた。

中川所長は、開会挨拶で参加者への感謝の意を表すと共に、現在行われようとしている新しい英語教育にどのように対処していくのかについて話し、新しい英語教のための研修会を行っていることを述べた。最後に参加者に各学校・各地で中心になって研修会の立ち上げを行って頂きたい旨と文部科学省・英語教育推進リーダー中央研修への応募して頂きたいことを締めくくりの言葉として参加者を鼓舞した。

続いて、梶田叡一・聖ウルスラ学院理事長から挨拶を頂いた。最初に同校の案内と参加者の視察の歓迎をした。続いて次期の学習指導要領についての話に移り、「私学は語学に強いといわれているが、これからは、中学、高校すべて、オールイングリッシュでやる。全ての学校が力を入れてやっているが、益々力を入れて研修しないといけない」と、私学が現在の評価に甘んじてはいけないと警鐘を鳴らした。そして、「1 つでも 2 つでも良い英語教育にしていかなければいけない。お互い頑張りましょう。」と参加者を激励した。

伊藤宣子校長からは、まず、私学での研修の大切さを述べ、今回同時開催の英智公開研究会の紹介を行った。教育の使命の大きさ、将来を担う子供の教育の大切さを考えると「英語教育の改革は真剣勝負でやっていかなければいけない」と話し、視察学校に選ばれたことに対して感謝を述べ、学校視察では指導頂きたいと挨拶された。



中川武夫 所長



梶田 叡一 聖ウルスラ学院理事長



伊藤 宣子 聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校校長

### 《ワークショップ》



開会式に続いてトム・レッドブリー氏(ブリティッシュ・カウンシル トレーナー)が「Teaching grammar communicatively」「Pronunciation for listening」の 2 つのワークショップを 90 分ずつ行った。ワークショップは共に、講師からペアで話し合ったりグループで話し合ったりするような課題が多く投げかけられ、参加者は英語を使用し積極的に取り組んでいた。ワークショップは、いずれも「Demonstration lesson」と「Demonstration lesson の分析」があり、Demonstration lesson の内容分析で話し合いを行うことで Demonstration lesson の内容理解の促進と定着が図られており、更に、実際に授業で使用する場面を想定したものとなっていた。

「Teaching grammar communicatively」の Demonstration lesson では文法事項について活動を通して学び、会話の中で学習内容の文法がどのような目的で、どう使われているかに焦点があてられていた。参加者はペアワークで決められた会話を話す段階から自分自身のことについて話す活動まで行い、学んだ内容を段階的に自分に引き寄せていった。内容分析では Demonstration lesson で行われた内容が、文法理解にどう助けになるか等を参加者同士がディスカッションしながら進められた。

「Pronunciation for listening」は、イギリスの大学と日本の大学の違いについてのパートナーとの話し合いを枕に、大学生活についての会話教材を聞き、その会話について講師から質問が投げかけられる形で **Demonstration lesson** が進んだ。後半も、与えられたリスニング課題から自分自身の事話すスピーキング課題まで段階的に進められた。内容分析では、発音上のつまづくポイントやリスニングの際に簡単なことから難しい事の順に少しずつ理解させること等についての講義等があった。発音は実際に生徒が直面する問題であり、例えばリスニングの際は、聞き取り易いようにスピードを遅くするよりも“実際のスピード”で行った方が、海外で英語を話す場面になった際、相手の会話の速度に面食らいモチベーションが下がることがないので良い、様々なネイティブスピーカーの発音を生徒に聞かせた方が良い等、授業場面に即した説明だけでなく実際英語で会話する場面も想定した説明もあった。ワークショップ中は、まさに英語漬けという状況であった。参加者は休憩中も互いに話し合い、講師に質問する等意欲的に取り組んでいた。



### 《情報交換会》



参加者を4つのグループに分け、参加者が現在の自身が英語の授業を行う上で共有したいこと、課題としてしていること等を持ち寄り、情報の交換を行った。All Englishの授業や、プレゼンテーション、ALTについて、4技能型の学習についての課題が出ており、共通する課題を持つ参加者同士の話し合いも見られた。自身実践例や問題の解決のためにやっていることも持ち寄られ、情報交換が進んだ。アンケートでは、他校の先生方と問題を共有できる機会が貴重、刺激を受けた等の回答があり、有意義なものであった。情報交換後にも名刺の交換を行う様子が見られ、参加者同士の交流が盛んであった。

### 《研究授業視察》

二日目は、会場を聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校に移して行った。今回は、同日行われていた英智公開研究会と一部合同での開催となった。オープニングセレモニーに続いて研究授業視察を行った。2時間の授業時間で高等学校のType1、Type2、尚志の3つのコースの授業を視察した。クラス毎に雰囲気も異なる3つの特徴ある授業それぞれに参加者は後方からだけではなく、机間巡視をして生徒の様子等を視察した。1時間目のType1コースの授業「グループワークを通して学ぶエッセイライティング」では、トルコについての現在の話題をアクティブ・ラーニングの手法を用いて進める授業が行われた。2時間目は、Type2コースのプロジェクターを用いたAll Englishの授業「発信力を高める異文化理解」とiPadを用いた尚志コースの授業「ICT使用の学びとその可能性～生徒の学びのモチベーション向上のために～」が行われた。いずれも、詳細な授業計画書や授業で使う資料等が配付された。英智公開研究会で行われていた小学校・中学校の英語の授業を見学することも可能であったため、そちらの英語の授業を見学した参加者もいた。



### 《質疑応答》



研究授業についての質疑応答は、まず高等学校の英語の授業を行った実践発表者から授業を行ったクラスと今回の授業についての説明があり、各先生方の授業内容や配られた授業計画案・資料に対して参加者から質問を受ける形で進められた。質問については以下のようなものが出された。「授業内容」、「先生・生徒の英語の使用頻度」、「予習復習についてはど

のような指示をしているか」、「授業中に使用する辞書について」、「使用している教材・機材」、「授業時間の割り当て」、「授業のフィードバックはどのようにしているのか」、「留学生の英語の授業中での役割と評価について」。

幅広い質問に対して研究授業者の先生は一つ一つ丁寧に答えていた。

### 《意見交換》



初日の情報交換会とメンバーを変えての4グループで意見交換を行った。参加者に加え研究授業発表者、聖ウルスラ学院英智小・中学校・高等学校の英語科教員が参加し研究授業の視察、質疑応答を踏まえた活発な遣り取りが行われた。議論の内容は英語教育、アクティブ・ラーニングの実施について、受験の不要な生徒に対しての英語学習の方法、英語の力が高い生徒と低い生徒がいるがどのように教えるのか、ICTが生徒のモチベーションを保つのにどのくらい有効に働いているのか、授業研究・教員同士の授業についての話し合いはどの位の時間を確保しているのか、等多岐に及んだ。

### 《講演》

英智公開研究会での田村学氏（文部科学省初等中等教育局視学官）のアクティブ・ラーニングについての講演を聴講した。講師が質問を投げかけ、参加者が隣の席同士と相談したりする場面も多々あり、盛り上がりを見せた。

講演は、まず、前提として今後どのような種類の仕事が減り、また増えるのかという今後の予測を導入に、学校と企業・学校と保護者で求める能力に違いがあるという現状についての話から始まった。そういった現状を受けて学習指導要領改訂について簡単に触れ、その中でも注目されているアクティブ・ラーニングについての説明があった。アクティブ・ラーニングの基本的な説明の後、実際の授業場面・児童生徒の発言を例にとり、アクティブ・ラーニングが行われているのはどういった授業なのか、また、それによって身につける力はどういったものであるのかについて更に詳しく説明がなされた。最後に、アクティブ・ラーニングは、「これまでの学習活動を一層高めていくという意味でイメージを持って頂ければ、確かなものになるのではないかと思う」と述べると同時にカリキュラム・マネジメントの重要性を強調して終了した。



と述べると同時にカリキ

### 《閉会式》

山崎吉朗・主任研究員が研修会を振り返りながら、今回のような大規模な研修の一連のワークショップ・研究授業・講演等で「英語の授業と共に学習指導要領はどうなるのか、アクティブ・ラーニングが導入されるとどうなるのかについて学ばれたのではないかと述べた。また、研究授業ではかなりタイプの異なる3つの授業を見て頂いたので、英語の授業をどう進めるのか参考になったのであれば大変有り難いと総括し、参加者の学校で、また私学全体での英語教育の活性化に向けて協力を要請して研修会を締めくくった。



＜都道府県別参加者数＞

No.	都道府県名	参加者数	No.	都道府県名	参加者数	No.	都道府県名	参加者数
1	北海道	—	17	石川	—	33	岡山	—
2	青森	1	18	福井	3	34	広島	—
3	岩手	—	19	山梨	—	35	山口	—
4	宮城	6	20	長野	—	36	徳島	—
5	秋田	—	21	岐阜	—	37	香川	—
6	山形	4	22	静岡	1	38	愛媛	—
7	福島	1	23	愛知	—	39	高知	—
8	新潟	2	24	三重	—	40	福岡	—
9	茨城	1	25	滋賀	—	41	佐賀	—
10	栃木	—	26	京都	1	42	長崎	—
11	群馬	—	27	大阪	1	43	熊本	—
12	埼玉	—	28	兵庫	—	44	大分	—
13	千葉	2	29	奈良	—	45	宮崎	—
14	神奈川	1	30	和歌山	—	46	鹿児島	—
15	東京	3	31	鳥取	—	47	沖縄	—
16	富山	—	32	島根	—			
13 都府県						計		27

アンケート結果

回答率 62.9% (17名/27名)

問1. 当研修会への参加目的をお知らせ下さい。

- これからの英語教育の方法について学ぶため。
- 教育改革の情報を少しでも入手し、本校教員間での情報共有と教育活動の活性化のため。
- 指導要領改訂にあたり、授業の組み立て方について学びたかったため。
- 授業で生かせる知識やテクニックを学ぶため。
- 授業力向上のため。特にアクティブ・ラーニングをどのように進めていくかを考えるため。
- 自信の授業スタイルの確立。今後の英語教育の可能性を考えるため。他校の取り組みを視察。
- 授業力向上のため。現在の英語教育の最新の流れをつかむため。本校のプログラム作成にあたり、参考にしている内容をつかむため。
- 他校の英語の授業がどのように行われているかを知り、自分の授業に活かすため。
- 授業改善への道筋を探るため。最新の英語教授法、教育を取り巻く状況について情報を知るため。
- 「生徒に英語を使わせる授業作り」を実現するための、先進的な理論、取り組みを学び、本校の英語科スタッフに伝えること。また、自分自身の授業作りに反映させること。そして、自分自身の授業改善に対する刺激を得ること。
- B C トレーナーによるワークショップでスキルアップ。他校視察。
- アクティブ・ラーニングの実践例を参考にしたい。他校との情報交換。聖ウルスラ学院の視察。
- 東京・上智大学での研修にも参加し、更に研修を受講したいと思った一方、受講しなくてはいけないのではないかと危機感を抱いたため。

問2. 当研修会の各プログラム・内容等について、参考になった点、感想、意見等をお書き下さい。

ワークショップ (トム・レドブリー氏)

- 文法の教え方が今までに見たことのない方法でとても参考になった。
- 文法の指導法は4技能の伸張をはかり、生徒の学習意欲を引き出す点でとても興味深い内容。リスニングの方はこちらの勉強不足を改めて自覚する良い機会となった。
- 教員にとって学習者の気持ちを思い返すためにもとてもよかった。現在取り組んでいることをどう発展させるべきか、また改善点もわかった。
- 英語漬けになる (なれる) 時間が久しぶりでとても刺激を受け、またこのようなワークショップに参加したいと思った。
- 文法をどのように教えるか、1つのパターンを教えていただき、ぜひ次の授業に生かしたいと思う。ただ、教材の面、進め方の部分は多少、中高生用にレベルを下げるなど配慮は必要かと思った。
- Grammar のレッスンが特に参考になった。過去完了という難しい文法だと思っていたものが、難しい言語や説明を使うことなく、活動を通して理解できた。説明 (教師の) ではなく、生徒同士が活動を通して理解できる良い見本を教えられた。
- テンポ・気づき・ワークシートやクエスチョンの作り方を体験することができた。自分が楽しいと思う教材を見つけ、アレンジするのに時間が必要だと感じた。

- British Council のワークショップは、授業に取り入れられるヒントがたくさんあり、大変参考になった。本校に取り入れるためには、カスタマイズが必要で、参考文献があり良かった。
- 過去完了形の実際の場合での使用の仕方を生徒に気づかせることができる、わかりやすい講義であった。
- 「文法」について、実践例はとても役立つ。演習の中で過去形と過去完了形の違いに気づかせるところが、とても良いと思った。
- 既習の文法事項を実用的に運用させる具体的方法とその際の効果的な実行法とその根拠を学べてよかった。「Controlled→Free」の手順が明確に理解できた。
- 大きな2つのプログラムを体験でき、自身の英語力向上と授業改善に向けたヒントを得ることができた。
- 文法を普段教えている角度とは異なる角度から捉える指導がわかり、今後高校1年生を対象に実践させてもらおうと思った。当然将来的に言語として英語を習得するために、必要な力であるが、今回はまさに本物の日常会話を利用したリスニングで、受験で出てくるようなきれいな英語ではなかった。それが力へとつながると思う。
- 「Communicative に文法を学ぶ」ということがどういうことであるのか、身を以て体験できたことは何よりも有益であった。Active Listen するために必要な視点は何か、考えるきっかけとなった。

### 情報交換会

- 同じように、様々な環境で頑張っている先生方に勇気もらった。
- ICT教育やアクティブ・ラーニング等について各校の現状が分かり、また有意義な情報（評価方法など）も入手でき、とても有意義だった。
- 様々な学校の取り組みが分かり刺激を受けた。
- 様々な私立中・高の先生と話できて大変学ぶことが多かった。習熟度別のクラスや部活（英語）の内容が聞けてためになった。
- 先進的な教育をされている学校の先生方との交流は大変有意義だった。
- アクティブ・ラーニングでグループワークや活動を行う際の評価の話が特に参考になった。
- 他校のプレゼンテーション方法やICTの活用状況、ALTとの関わりを学ぶことができた。
- 各校の取り組みを知ることができ、地域の特徴を知ることができた。それらを踏まえ、更に魅力ある学校作りをしていきたい。
- それぞれの学校の状況に違いがあったが、どの学校でもレベルの差がある中での授業に苦慮していることがわかった。
- 他校の先生方と話をする機会が大変貴重なのでありがたかった。
- 各校の現状やそれに対する取り組み事例を伺うことができてよかった。とくに、共同、共働学習の成功例等伺えて、大変参考になった。
- 現場（生徒の生活域）との関連が高く、又、その学校のある地域性が英語教育に反映されているので、東京発信がすべてではないと考えることが必要だろう。
- 様々な学校の“今”を知ることができた。
- 今まで他県の私立学校の概要や悩んでいる事などを知る機会がなく自分たちが行っている教育がどうなのかを客観的に考えられなかったが、いろいろと現状がわかり、かなり参考になった。
- 時間がもう少し長ければ、より踏み込んで情報の交換ができたように思う。

### 研究授業

- グループワークやペアワーク等の、授業にとり入れ方等参考になった。また、異文化理解をより深く掘り下げる工夫も、今後の励みになりそうだ。
- 先生方がよく生徒のことを見て、考えて、準備をされているのを感じた。そのため、生徒たちも意欲的に学ぶと思った。
- 鈴木先生（高1）と小関先生（中1）の授業を見学した。VoAは私も授業で使いたいと思っていたので、使用例を見ることができ参考になった。小関先生の授業ではすぐに生かせるスキットのアイデアをもらった。
- ジグソー法がうまく機能していて、とてもおもしろい授業だった。英語をツールとして使っていて、生徒が自分の言葉で自己表現していることが素晴らしかった！
- それぞれがテーマを持って、取り組まれた授業は大変参考になった。
- iPadを用いた授業がいかにかに生徒の集中力を維持できるのを感じた。
- 2種類の異なる形態の授業を見ることで参考になった。2つそれぞれにやってみたい要素がいくつかあった。
- 英文の意味理解にとどまらず、理解した英文から読み取れること→世界を理解することにつながるグループワークの手法が大変参考になった。
- 近年大きく変わりつつある英語教育を意識された授業例を提示して頂き参考になった。オールイングリッシュ、グループワーク、教科書、ICTと1つだけでなく様々な側面を見ることができよかった。
- 英語（高校）の3つの授業を見学した。学院の方々にはたくさんの質問をしたが、丁寧に答えて頂き、大変参考になった。

### 分科会（質疑応答）

- 同じ高校においてもコースごとに色々な悩みがあり、情報を共有できた。
- 応答して頂いたことを役立てていきたい。
- 年間を通して、計画的にやられているのが分かった。本校英語科でも来年度の計画を立てていきたいと強く思った。
- それぞれの生徒のレベルに応じた工夫のある授業についての意見を聞くことができ、参考になった。
- 研究授業の狙いを直接授業者の生徒から伺うことができ参考になった。
- 実践の根拠をより深く理解できた。
- 様々な学力レベルでの授業を見ることができてよかった。
- 授業や指導計画ではわからない実情について、知ることができ、生徒に合わせて先生方が苦勞していることを直面する課題としてとらえることができた。

### 分科会（意見交換会）

- 聖ウルスラ校の状況を教えて頂いた上で、どのように取り組まれているかがわかり、とても参考になった。
- ウルスラ高校の実情を中心に、授業の活性化、学校全体や教員意識の向上に向けた情報交換ができ、とても有意義だった。
- 多くの意見を参考に今後役立てたいと思う。
- 各校での授業の取り組み、先生方の英語教育についての考え方がわかった。
- 参加した学校の特色や取り組みについて聞くことができてよかった。
- 各校の取り組み例を伺って参考になった。
- 大学入試を前提としたときは、all English とは悩ましいのではないかと。ただし、all English が英語体験にプラスになり得るのかもしれない。All English の最終的な目標はどのレベルなのか。
- 様々な学校で苦勞していること、成功していることなど、自分の学校で応用できるきっかけをたくさん学ぶことができた。

### 講演 【田村 学氏】

- アクティブ・ラーニングの実例のみならず、内容を総合的に把握できたことは、今後の指針にもなると思う。
- なぜアクティブ・ラーニングなのか、具体的によくわかった。
- アクティブ・ラーニングについて分かりやすく学ぶことができた。
- グループ学習という形にこだわっていたが、内容の方がずっと大切であることがよくわかった。
- アクティブ・ラーニングについて、整理することができた。もうすでに始められることばかりなので、実践していきたい。
- アクティブ・ラーニングにチャレンジしていきたいと思うが、グループワークなどをさせた場合に、それぞれが効果的になるような集団作りが難しいように感じる。
- アクティブ・ラーニングが必要になった背景から説明があり、理解しやすかった。
- 学校内だけではなかなか知り得ない内容でした。
- アクティブ・ラーニングの方向性、留意点がよくわかった。
- 改めて学ぶ喜び、理解する喜びにつなげるプロセスの再確認ができた。既存の教授方法からの脱皮が大事だと感じた。
- アクティブ・ラーニングの意義、どのような生徒に育てていくのかというビジョンをもって本校の教育活動を行っていききたいと思う。

問3、今後の本研修会への要望等をお書き下さい（例：研修会で取り上げてほしいテーマ、課題、実施してほしいプログラム、継続もしくは改善を望む事項、来年度以降の開催時期等）。併せて、当研究所の研修事業等に対するご意見がありましたらお書き下さい。

- 今回はワークショップや研究授業双方において教員も生徒もかなりレベルの高い内容だった。できれば俗に言う偏差値の中堅もしくはそれ以外の学校の実践例や指導内容について分かれば、なおありがたい。
- 交流や意見交換では非常に有意義な時間を過ごすことができた。是非もう少し長く時間をとっていただきたい。大変勉強になったので、機会があれば是非また参加したい。
- 教育界での旬なトピックについて、例えばアクティブ・ラーニングとかを扱ってほしい。
- 英語の文法指導時において、実際にどういう場面作りをすると効果的かというような内容を学びたい。
- 今回初めて参加したが、事前にもっと見解の存在情報があると、さらに多くの参加者があると思った。
- ぜひBritish Councilの他のワークショップについても参加してみたい。
- 情報交換をもっと、交流会、懇談会などが企画されてもよかったのではないかと。全国にはこういう私学があるということをもっと知りたかった。しかし、いろいろ参考になった。